

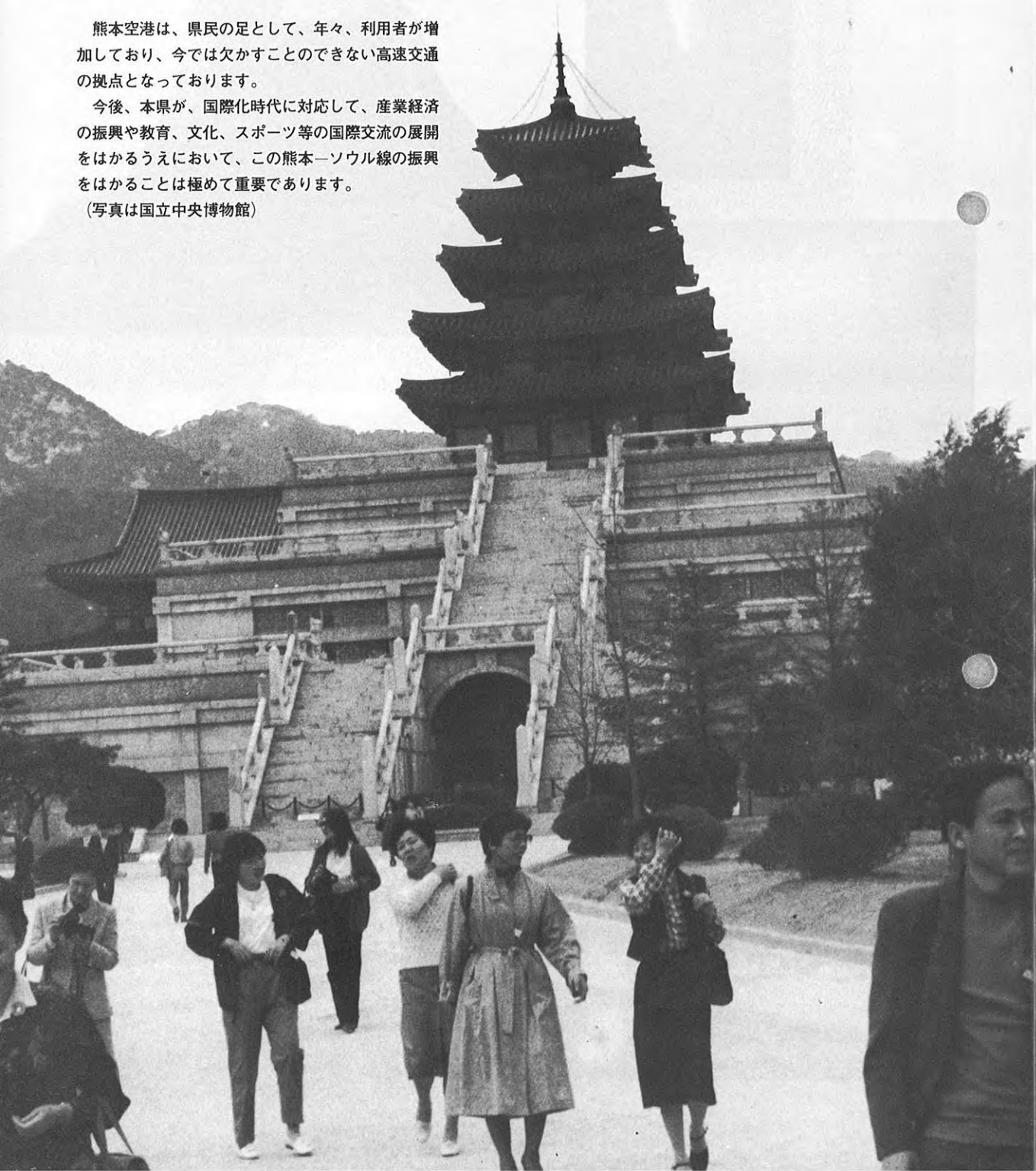
国際定期便の振興を

～熊本ーソウル線～

熊本空港は、県民の足として、年々、利用者が増加しており、今では欠かすことのできない高速交通の拠点となっております。

今後、本県が、国際化時代に対応して、産業経済の振興や教育、文化、スポーツ等の国際交流の展開をはかるうえにおいて、この熊本ーソウル線の振興をはかることは極めて重要であります。

(写真は国立中央博物館)



わたしの
郷土

苓北町立富岡小学校 六年 江頭 純子

苓北町は、天草下島の西北端にあり、はまゆうを町花に、つばきを町木とする人口一万一千人たらずの町です。長崎までフェリーで一時間二十分の距離ですので長崎との交流が深い町でもあります。また、広域農道ができたため天草の中心地本渡市までの時間が短縮され非常に喜ばれています。町内には志岐城、富岡城の二つの城址があり、鎌倉ー室町ー江戸時代にわたって活躍した祖先の歴史が残されています。志岐城は天草最古の城として三百年にわたる盛衰のあとがみられますが、志岐鱗泉や天草キリシタン文化の発祥に關係が深いところでは、富岡城は慶長八年寺沢高が天草を治めるために番代を置いて全島の統治にあたらせた所であり、また、天草島原の乱の激しい攻防戦がくりひろげられたことで有名です。

町の産業としては年間気温十七度Cの温暖な気候に恵まれミカン、ボンカン、レタス、グリーンピースなどの栽培を主とする農業と釣り漁業のほか静かな内海を生かしてタイ、ノリ、真珠の養殖などの水産業、陶磁器の原料として全国的に有名な天草陶石があり佐賀県や愛知県に移出しています。昔は石炭の産地としても栄えたそうですが今では採掘されておられません。

全国でも初めての指定を受けた海中公園は暖海又は亜熱帯性の海域であるため海水の透明度もすぐれ海中には美しい色彩のソラスズメダイやミナミハタンボボなどが群がって泳いでいるのもみられます。また日本と中国を結ぶ海底線中継所もあり、両国を経由して他の国々との通信にも使用され経済・文化の幅広い交流と発展に大きく貢献しています。

頼山陽が「雲か山か呉か越か……」とうたった東シナ海に沈む夕日、富岡城址からの波静かな袋湾のながめは素晴らしいものです。きれいな空と澄んだ海に恵まれたゆいしよあるこの町を誇りにしたいと思います。